

J. F. Rock の Chaulmoogra 油母植物採集行



岡村平兵衛氏小照

(泉州堺市向陽町岡村橋東詰丁子油屋主人)

同氏ハ當年八十一歳ノ高齡ニ達セラレタガ尙頗ル矍鑠トシテ居ラル、事ハ茅出度キ極ミデアル、同氏大風子油製造ノ動機ハ前條ニ刈米博士ノ述ベラレタ如ク親シク癱病患者ヲ扶護セシニ始マル是レハ夙ニきりすと教ニ入り其信者トシテ獻身的ニ爲シタ事デ爾後十四ケ年ノ久しき絶エズ同病人三名許ノ者ヲ家族同様ニ憐レミ其面倒ヲ見テ親切ニ世話シャリシガ此間實ニ何百名カ數知レヌ患者ノ出入ヲ見之レガ爲メ製造セシ上述ノ薬ガ何時トハナシニ遂ニ同家ノ營業トナッタモノデアルトノ事デアルガ實ニ氏ノ如キハ世間ニ多ク見ラレナイ慈悲心ノ深キ士デ此ノ事ナク告ケルナキ憐レナ癱疾者ヲ多年ニ亘ツテ愛シミシ其真心ハ人間トシテ最モ貴イモノデアル、同氏ガ斯ク高齡ニ達シテ尙壯者ヲ凌ケ健康ヲ贏チ得且ツ家道ノ盛シナル所以ノモノハ偏ヘニ神ノ惠ム所ト謂ッテモヨカラウ、私ハ同氏ガ何時マデモ壯健デ鶴齢龜壽ヲ保タレン事ヲ祈ッテ止マナイ

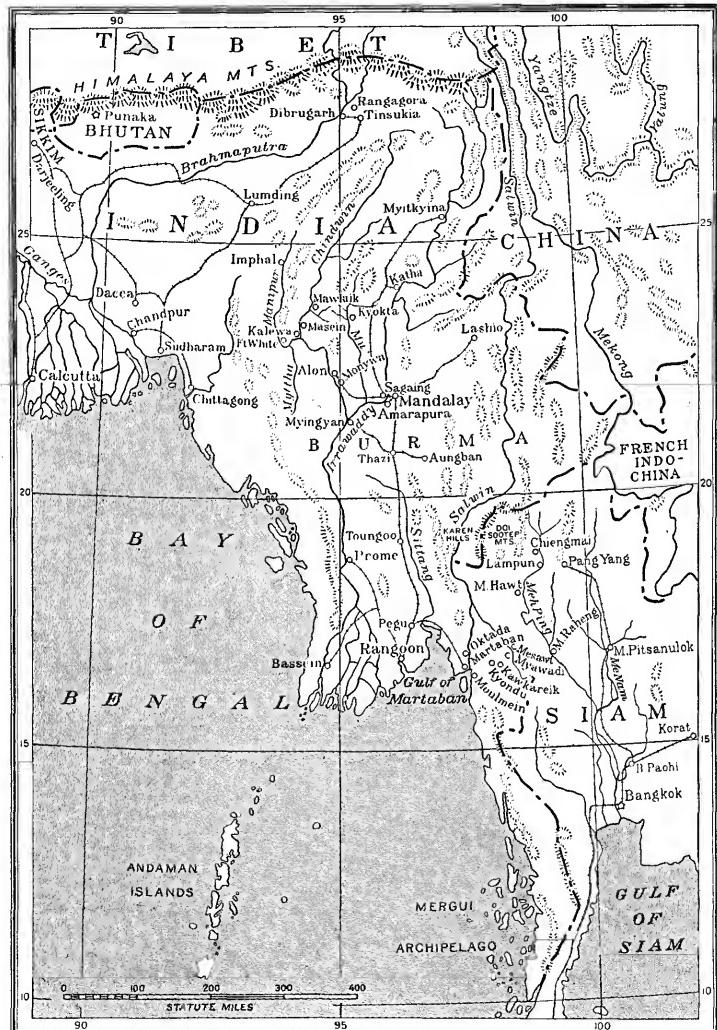
(牧野富太郎謹記)

(編輯者挿入)

O.J. F. Rock の Chaulmoogra 油母植物採集行

久内清孝

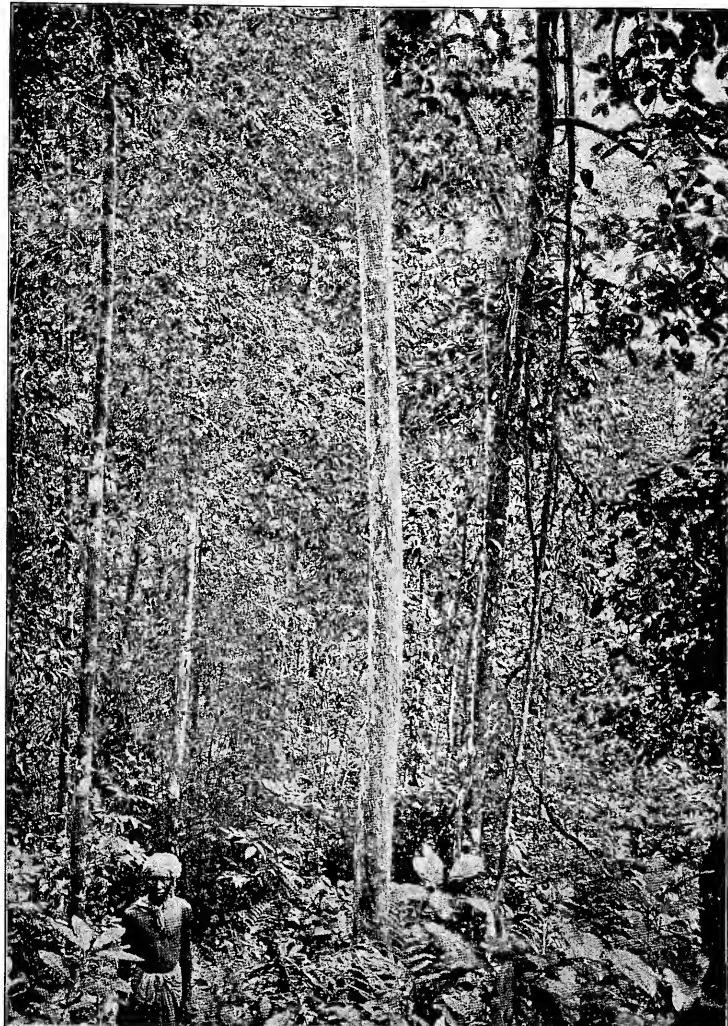
我が日本ノ「モダーン」徐福緒方正資氏ガ瓜哇ニ航シテ蒐集サレタル大風子原植物ニ關スル刈米博士ノ記事ハ



Chaulmoogra-oil tree ノ産地ナル ビルマ ノ地圖

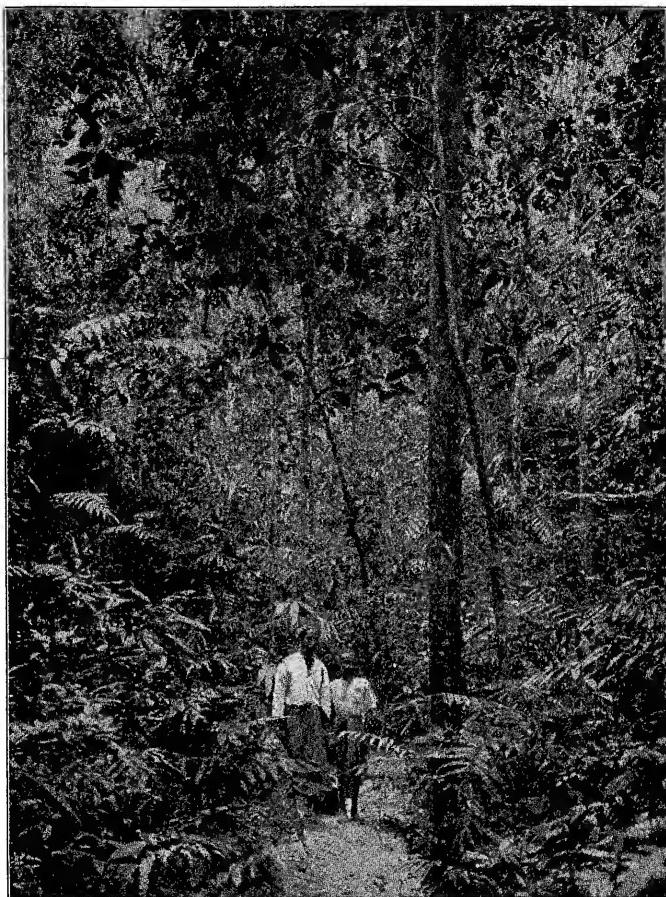
我ガ日本ニ於テハ絶後デハニ空前ノ事ニアル、又其生本ヲ視タ人ハ絶無デハナカラウガ甚ダ鮮イニ相違ナカラウガ茲ニ想起スルノハ約十年前ニ布畦ノ J. F. ROCK (The indigenous trees of the Hawaiian Islands) ガシャム及ビビルマノ著者)

J. F. Rock & Chaulmoogra 油母植物採集行



北西ビルマ ナル Khoung kyew 密林村ノ附近ニ聳立セル
Chaulmoogra trees.

山中ニ Chaul-
moogra 油母
原植物 Taak-
togenos Kur-
zii KING の探
査ヲ行ッタコ
トデアル、其
起事ハ The
National Geo-
graphic Ma-
gazine, XII.
No. 3 (1922).
ニ載セテアル
ガコノ雑誌ハ
餘リ専門家ノ
お目ニ止ラナ
イ雑誌デモア
リ且ツ今デハ
相當古クナツ



ビルマノ北西部ニ在ル Kyokta 密林村附近ノ狭キ苗床ニ沿フ
タル Chaulmoograノ林中ノ景

thelminitica ノアツタガ是レハ彼ノ目的物デハナイニシロ一應其野生ヲ見ル目的デ土地ノ人ノ言ヲ信ジ東部シャ

タカラ之ヲ左ニ摘記シテ
見ル、即チ溫故知新ノツ
モリデアル

Chaulmoograハ我日本
デ大風子ヲ用フル如ク其
「エチール・エスティル」ガ
布畦デハ癩病ノ藥トシテ
用ヒラレテ居ルガ原料ヲ
一一外國ニ仰イデ居テハ
間ニ合ハナイトテ其植物
ヲ求メ得テ之ヲ栽培スル
ノ必要ヲ感ジタ、彼ハ日
本ヲ經テ先ヅ盤谷府ニ渡
ツタ處同地ノ寺院ノ庭ニ
テ土名Maikraoト云フモ
ノヲ見タ、コレハ大風子
ノ原植物ト思ヘンテキル
處ノ Hydnocarpus an-



其樹ノ幹ニ針ニテ止メ支ヘシ真正 Chaulmoogra-oil tree の果枝
本品ハ癩病靈藥ノ原料ナリ

更ニ彼ハ Taraktogenos
Kurzii 發見ノ目的デ Meh
Ping 河ヲ舟デ下リ Roh-
eng ニ來リビルマノ國境
ヲ越エテ Moulmein ニ入
リ十二月初旬ニマルタ
バン灣ノ東方ナル Kaw-
kareik ニ達シコニ始メ
テ T. Kurzii ニ見タガ果
實ガ無カツタノデ更ニ同
灣西北ノマルタバン山系
中ノ土語 Kalaw ネシフモ
ノガ T. Kurzii デアルト
聞キ Salwin 河ノ河口ニ近
キ Oktada ニ行クテ見タ
ラ士人ノ言フ Kalaw ハ
Hydnocarpus castanea デ
アラチ田的ノ T. Kurzii



ビルマ土人が手に果實ヲ着ケシ Kalaw tree

即チ *Hydnocarpus castanea* の枝ヲ

持チシ體

デハナカツタガコノ *H. castanea* ュ *T. Kurzii* ュハ種子デハ殆ンド區別ガ出來ナイ程似テ前者ハ子殻ガ二重デアルコトノ外區別スベキ何物モナイ程似タモノデアツタカラ念ノ爲百七十個ノ種子ヲ蒐メテ米國ニ送ツタガソレガ今デハ生長シツ、アル、而シテ其種子油ノ成分ガ判明シタラ或ハ Chaulmoogra 油ト同様ナ性質ノモノカモ知レナイト言ツテ居ル

彼ハ尙 *T. Kurzii* ュ追究スルコトヲ止メバ Chindwin districtニ向ツタガ此レハ同地政府ノ林務官ノ注意ニ基イタモノデ Khoung Kyew デ Taraktogenos Kurzii ュ見付ケタガ此レモ果實ガナカツタ、ソコデ彼ハ更ニ中部ビルマノ Kyokta ハ向ヒロ、デ果實ヲ得且ツ多量ノ種子ヲ得テ之ヲ持チ歸リ米國ニ播種スルヲ得タガ其際彼ハ種

子ノ發芽ヲ保證スル爲其ノ種子ヲ木炭末デ包ミ更ニ其上ヲ油紙ニテ包ンダトノコトデアル

此レガ Rock ノ記行文ノ骨子デアルガ之ニヨリ Taraktogenos Kurzii, Hydnocarpus anthelmintica 及ビ H. castanea ノ三種ノ野生地ガ的確ニナツタコトハ甚ダ有益ナコトデアル、氏ノ此ノ記事ハ紀行ノ體デ書カレ途中目撃シタ佛寺ノ寫真ヲ澤山カヽゲ又虎ノ足跡ノ寫真マデモ掲ゲタ上ニ土人ガ捕ツタ虎ヲ首ト胴ノ處デ棒ニクヽリヅケ前後二人デ相撲ノ觸レ太鼓ノ様ニ村中ヲ擔ギ廻ツテ居ル寫真ヲ示シテ居ル其寫真ハ甚ダ面白ク興味正ニ百「パーセント」デアルガ本誌ハ植物ノ雑誌カラ其ノ轉載ハ遠慮シテ Taraktogenos Kurzii ム Hydnocarpus castanea ノ寫真丈ヲ轉載シテオク、讀者諸君ニドレ丈ノ感興ヲ喚起スルヤデアルガ余ハコノ記事ヲ甚ダ興味深ク一讀シタカラ之ヲ記シテオクノデアル

○禾本科植物ノ葉鞘ノ前合セ方

青森縣西津輕郡川陰村農會

中野廣之助

禾本科植物ノ葉ハ葉身ト葉鞘トノ二部分カラ成テキルガ葉鞘ハ大抵ノ場合殊ニ幼植物又ハ若枝デハ必ズ兩緣ガ前合セトナリ稈ノ各節上部軟弱ナ部分ヲ被覆シテキル、自分ハ水稻育種事業ニ從ツテキル者デアルガ稻ノ個體調査ニ際シ圖ラズモノノ葉鞘前合ノ仕方ガ常ニ着生順ニ右前ノ次ギガ左前ニ、左前ノ次ギガ右前トナツテキテ一ノ異例モナイコトヲ知ツタ

ソシテ此現象ハ稻ニ限ラレタモノデハアルマイト思ヒ出來ルダケ多數ノ植物ニ就テ調べテ見タ、ソシテ私ノ見タ範圍デハ禾本科植物ハ總テ稻ト同一ノ法則ノ下ニアルコトヲ確メ得タ、シカシ他ノ科ノ葉鞘ヲ持ツタ植物デハ前合セ方ニハ一定ノ法則ガナイ、尙禾本科植物ノ最上葉ノ葉鞘即チ穗孕シタ葉鞘デハ、本稈デアルト分蘖デアルトニヨツテ、種、品種、系統ニヨツテ前合ノ仕方ハ右前或ハ左前ト一定シテヰナイ